

対象は広島大学全構成員約1000人
2019年は学生のみ

大学生の就職の際の会社選びの支持率



研究のテーマは持続的な開発に関する個人の行動分析

企業のSDGsの取り組み、就職や消費動向に影響 若い世代ほど高いSDGsへの期待値

広島大学FE・SDGsネットワーク拠点(NERPS/ナープス) 研究員

兵庫県宍粟市出身。国際協力機構(JICA)大阪教育大学勤務を経て、2016年より広島大学に。大阪大学国際公共政策研究科博士後期課程単位取得退学。



■研究のきっかけ

国連が2015年に策定したSDGsは誰一人取り残さない社会を目指し、先進国と途上国のみんなが一丸となって取り組む目標が定められています。「では、個人の単位としては、どう取り組んでいけばいいのだろうか」。もともと、途上国を支援するJICAに勤務していたこともあり、その命題に興味を持ったことが研究に取り組むきっかけになりました。

■研究内容

大きくは2つのことに取り組みました。一つは「若者世代(18~30歳)はSDGs世代か」ということを検証するために、インターネット調査で、SDGsに関連するライフスタイルにおける世代効果や、若者の就職の際の会社選びを分析しました。

もう一つは、一般消費者が、商品の購入や転職の際に、企業のSDGsの取り組みを選択基準にしているのかどうか、を分析するために、日本人約6000人を対象にオンライン調査を行いました。

■研究から見たこと

若くSDGs世代



NERPSのウェブサイト
でSDGs関連情報を更新中